

音 今 の 町 崎 黒

黒崎のスポーツ

「黒崎町の今昔」は今回が最終回となります。

皆さん長い間ありがとうございました。

(十八)

(先月号からの続き)

新潟市と合併に伴い、今回が最終回ということで、十四人の皆さんの感想文を紙面の都合で要旨のみまとめて紹介します。

大洋クラブの思い出 鈴木 昭



…大野小学校のグラウンドに集まって野球の練習をしました。練習はきつ

ランドが狭いため窓ガラスを壊して叱られたり、田んぼのボール探しに苦労しました。練習はきつかったが、その後のアイスキャンデーの差し入れやあづき湯の御馳走は楽しいものでした。

大洋クラブの思い出 大坂昭二



で初めて捕手をさせられた時、マスクが無く打撃練習

時には顔面、急所と打球が当り怖かった。それに投手の渡辺進さんの下手投げは、球が急に下から上に浮かんできたり、沈んだりした

りして、補球に手まどったことを覚えていません。

大洋クラブの思い出 鈴木 七衛



昭和十七年新潟商業に入

学した私は新商の野球部に入って野球を楽しんでいました。三年生の昭和十九年名古屋の飛行機工場に学徒動員され、二十年終戦に帰郷した私は大洋クラブに入りました。

こうして黒崎野球連盟は結成された



昭和三十九年頃から公民館主催でチーム参加して戦域野球大会が開かれた。四十五年野球好き

な白井弘さんと自分達が中心に、参加チームの勧誘から大会運営、野球場探し等懸命な努力によって黒崎野球連盟が誕生した。

新発田球場での思い出 石黒 恒

新発田に青年団の郡市対抗野球大会が開かれ、大洋クラブが西蒲

代表として出場した時は、選手が足りず高校生の自分が頼まれ気がひけたのも、アガリのもとか、ポウーとした所へ二塁ベース寄りのゴロ。うまく捌いて一塁送球。「アッ、シマッタ」白いボールは一塁手の頭上を遙かに越えてベンチ前に転々々。忘れ得ぬ青春のコマである。

わが町の黒崎クラブ



元黒崎クラブ監督・笹川 英雄

OBを中心



星 世輝

新潟地区大会の一回戦を勝ち、準決勝は白新中学で接戦の末、三対四で破れ中学生の野球生活が終りました。全試合を一人で投げ抜いたことが脳裏に浮かんでいます。

大洋クラブ

黒崎クラブ監督・野口 昭次

が、みんな二十九才で野球引退という事で野球をやめました。しかし野球をしたい気持が強く、白井先輩の紹介で大洋クラブに入りました。



私と野球と大洋クラブ



戦後私達小学生はボール、バット、グローブは布製であった

り、時には鎌の柄であったり野球場は信濃川の堤外地の田圃だったように思います。大洋クラブとの出会いには中学校の野球部で、故・北沢先生や故・大坂さん、白井弘さん、外に大勢の方の御指導を受けました。

野球の思い出 et c

歴史ある大洋クラブに短い期間でも在籍できたことを光栄に思っています。新津の秋葉山のグラウンドへ福島県から朝一番の汽車に乗り試合に行った事が今でも印象に残っています。

苦労話



野口 昭次

試合を年間消化しているが、一番

の苦労は選手集めである。選手九人の年齢合計が四百五十才以上や、投手の年齢が四十七歳以上などの制限があるため、電卓片手に選手の交代が大変である。

商工会青年部県大会に優勝

「真昼のノロシ」、それはお昼休みを利用して正午から二時間灼熱の太陽のもと文字通り真昼の特訓が続いたのである。



私が野球にのめりこんだのは、小学校四年の時でした。

東京へ修業に行っていた兄の吉田広英氏から貰った、ピカピカの黒いグローブとの出会いからでした。

思い出すままに 笹川 耕

長い間、黒崎町の今昔をお読みいただきありがとうございました。筆者としては、これらの皆さんの原稿をいざれ機会があれば、「黒崎の野球史」又は「黒崎のスポーツ」として、ご紹介できる日を楽しみに、広報くろさきの連載を終りにしたいと思います。